

令和7年度第2回香川県教育センター運営協議会 議事録

【日時】 令和8年3月16日（月）14：30～16：00

【場所】 香川県教育センター 4階第5研修室

【出席者】 委員10名（欠席1名）、教育センター所長外4名
 ※傍聴人 無し

【議事概要】 令和7年度事業実施状況について
 令和8年度事業について

【主な質疑応答】

○調査研究事業について

委員	<p>毎年の調査結果の分析において、前年度と比較した「増減」が記載されているが、統計データには当然揺らぎがあり、短期的な増減の原因を特定することは難しいのではないかと。短期的な変化にとらわれるのではなく、長期的な視点での変化について語る方が、意味があるのではないかと。また、前年度の取組みの効果が、すぐ翌年度の数字として表れるのか疑問である。</p>
事務局	<p>ご指摘のとおり、このような調査も研究であり、短期的に成果が出るものではないと認識している。報告書は、事実としてどのような傾向にあるのかを伝えるものであり、因果関係までは難しくても相関関係を見ながら、現場の先生方が改善に生かせるヒントになることを目指している。なお、県独自の教科調査は今年度で最後となるため、これまでのデータを長いスパンで見直した特別なページを今年度の報告書に作成している。</p>
委員	<p>来年度から質問紙調査のみとなり、対象が小3から中3に拡大される「県の学習状況調査」の実施時期はいつか。全国学力調査（4月）と時期が近いと、同じことをやる意味がないため、差別化が必要ではないかと。また、年度後半は様々なアンケートが多く学校の負担になっている。県の学習状況調査をベースとして、他部署（知事部局など）が必要なデータをそこから引用するなど、同じような調査が重複しないよう工夫してほしい。</p>
事務局	<p>実施時期については県教委担当課で調整中でありまだ決定していないが、現時点では6月頃を予定している。</p>

○教職員研修事業について

委員	<p>専門研修における生成AIを活用した研修はどのような内容を予定しているか。また、Google Classroomとはどういったものか。</p>
事務局	<p>生成AIの研修は来年度初めて実施するため、具体的な内容は現在計画途中である。Google Classroomについては、県として県域教育クラウド用にGoogleアカウントを配布し活用を進めていくものであり、全国的に歩調を合わせるものではない。AIのメリットとデメリットの双方を合わせて教育する必要があると認識している。</p>
委員	<p>30代前後の中堅教員は現場で大きな仕事を任せられ多忙であるが、中堅研修がキャリアや自分自身を見直す良い機会になっている。一方で「学校参画」の意味が分</p>

	からないという教員もいるため、自分のことだけでなく全体を通して参画意識を持てるような充実した研修にしてほしい。
事務局	現場の期待に添えるよう、研修内容を充実させていく。
委員	主任主事・主事研修会が「3年に1回の開催になる」と資料にあるが、これは開催方法を変更した（毎年全員を集めるのをやめた）ということか。
事務局	もともと3年に1回、対象者が全員集まる研修であり、変更したわけではない。資料に「開催しない」ということだけを特出しして記載してしまったため、誤解を招く表現になってしまった。
委員	研修が教員の負担となり、教員を辞めたいと思う原因にならないか心配である。法定研修はやらざるを得ないが、押し付けではなく、自分自身の意思で面白いと思える自己研修のような形が良いのではないか。
委員	教員の心の病による長期休みの多くは、保護者対応や職場の人間関係の悩みが大きく、研修の負担で辞めたいと思う人はほとんどいないのではないか。むしろ、採用年数や学校での役割が共通する教員が集まることで悩みが話しやすくなり、メンタルヘルスに良い面もあると考える。

○教育相談事業について

委員	今の若い人は電話をかけたがらない傾向にあると思うが、相談は保護者からかかってくることが多いのか。
事務局	子どもと保護者の両方からかかっている。
委員	24 時間電話を受け付けてくれる安心感があるからだと思う。夜間などに対応する現場の方々は体制を維持するのが大変だと思うので、その苦労がもっと認知されてほしい。
事務局	今後も 365 日 24 時間、穴を開けることなく持続可能な窓口体制を作っていくことが課題であると認識している。

○カリキュラムセンター事業について

委員	「さぬき学びの支援隊」を実際に活用して大変助かっているため、縮減された予算をぜひ維持・復活してほしい。また、制度を知らない退職教員もいると思うが、貴重な人材を確保するために退職者へ向けてどのような宣伝（周知）を行っているのか。
事務局	退職される先生方が集まる会があり、その場で「さぬき学びの支援隊」についての資料配布案内を行っている。
委員	週末のテレビ番組で、初任者への指導教員派遣などの支援について紹介されているのを見た。このような支援の取組みが広く世間に周知されることは、保護者の安心にもつながる非常に良い取組みであるため、今後も支援事業を続けるとともに積極的な周知を行ってほしい。

○その他

委員	働き方改革により研修が縮小傾向にあるのは寂しい。センターでの研修は、単なる学びだけでなく教員の横のつながりや人間関係づくりの場として重要であり、そのような機会を大切にしてほしい。
委員	センターでの研修が、教員同士が悩みを共有し「自分一人ではない」と安心できるメンタル面の支えになっている。また、時世を鑑み、性暴力防止に関する研修も取り入れてほしい。
委員	任意の研修組織（香小中研など）の加入率が下がる中、現場で教科の研修をどう実践していくかが大きな課題である。教育委員会の研修（職務命令）と任意の研修をどう組み合わせしていくか、研修体制のあり方を考える必要がある。
委員	学ぶ機会を与えられたことに報恩の気持ちを持つことが大事である。他県の事例として、退職教員等の人材を活用して保護者対応などを引き受けるシステムがある。学校でも家庭でも「笑顔」で対応することが大切である。
委員	（教育相談事業に関して）電話相談が多いのは、24 時間受け付けてくれる安心感があるからだと思う。相談員の方々が維持するのは大変だと思うが、地域で受け止めてくれる窓口があることは重要なので、ぜひ体制を維持し、認知度を上げてほしい。
委員	保護者の立場から、個別最適化など学校現場の努力や先生方の団結を感じている。研修を通じて先生方の信頼関係が構築され、環境が良くなることを願う。一方で、こうしたセンターや学校の良い取組みを保護者が知る機会がないため、広く周知してほしい。
委員	子どもたちが国際的なセンシティブな問題に触れる中、教員には発達段階に応じた視座を与えることが求められている。WBC の日本代表のように、それぞれの役割を理解し「チーム力」を発揮できるような研修体制を築いてほしい。
委員	任意の研修や県・校内の研修を問わず、教員自身が学ぶことが好きであるという姿勢を子どもたちに身をもって示すことが大切である。今後も学ぶことの大切さを伝えられるよう支援をお願いしたい。
委員	研究発表会で、タブレットを活用した授業づくりに一生懸命取り組む教員の姿を見た。一方で、便利な反面、情報共有や生成 AI の危険性もあるため、情報リテラシーについて学ぶことも重要である。
委員	香川大学教育学部の卒業生の教員就職率が低下しており、危機感を持っている。センターの研修等で生き生きと働く「笑顔あふれる教員」の姿を学生にも提示し、大学と連携して教員の採用率向上につなげていきたい。

○所長挨拶

事務局	委員の皆様からの多様な意見に感謝し、しっかりと受け止めて、次年度に向けて改善できることからどんどんチャレンジしていきたい。 毎年度、研修のあり方については見直しを行っている。センターに集まることが香川県の強みであるため、集まる機会を大切にし、そこで先生方が自分の思いをアウトプットできる時間を増やしていきたい。「やらされる研修」ではなく、自分
-----	--

で問いを持ち、経験を振り返りながら他者と関わることで気付きを得て持ち帰る研修を目指している。そして、その気付きを学校で同僚や後輩に広げていってほしいと願っている。受講者からの「集まる意味がなかった」といった厳しい声も真摯に受け止め、さらなる改善に向けて見直していく。

AI 等で相談できる時代になっても、電話による「生の声」の相談が増加しており、一つの大切な窓口であると再認識した。24 時間受け付けてくれる安心感は、経験豊富で専門性の高い相談員が夜間や休日に柔軟かつ適切に対応してくれているおかげで成り立っている。一方で、深夜の相談が増加する中、業務経験の長い相談員に深夜帯や長時間の連続対応をお任せしている現状があり、相談員のメンタルケアも含めて組織としてどこまでお願いしてよいのかという大きな課題を抱えている。県としてニーズがある以上、365 日 24 時間穴を開けることなく、今後も持続可能なものとしていくための体制づくり（見直し）が令和 8 年度は必要であると感じている。

新しいことが次々と求められる中、研修や研究、学校支援を通じて現場のニーズに応えられるよう努めていく。対応できること・できないことはあるが、現場からのリクエストを受け止め、できるだけチャレンジしていく姿勢で取り組んでいくため、次年度も引き続き率直な意見を頂戴したい。